

## 皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

### 乾燥肌をそのままにするか、健やかな普通肌に戻すか

乾燥症状がなくなった後、また乾燥が繰り返されてもいいのか、それとも、乾燥を繰り返さない健やかな肌に戻りたいのかをはっきりさせることが重要です。

『皮膚バリアケア』あるいは『保湿ケア』、どちらのアプローチが適しているかを定めるには、因果の法則を理解した上で個々の肌トラブルの程度を評価し、目指す結果を明確にすることが重要です。

#### ●因果の法則を理解した上で個々の肌トラブルの程度を評価

1. 皮膚バリアの状態が悪化
2. バリア機能が低下
3. 角質水分保持力が低下
4. 乾燥状態あるいは敏感肌が発生
5. ターンオーバーが乱れる
6. 長期間角質剥離不全(古い角質が肌表面に残る)が起きる
7. 長期間角質肥厚(角質層が過剰に産生)が起きる
8. 長期間バリア機能のある角質層が再生されない
9. 長期間角質水分保持力あるいは過敏反応抑制力が低下する
10. 長期間肌が乾燥あるいは敏感
11. 長期間他の肌トラブルや二次的な症状が発生(アトピー、かぶれ(接触皮膚炎)、アレルギー反応、じんましん、紅斑、慢性的なかゆみ、湿疹など)

#### ●目指す結果、つまり『どのような肌になりたいか』

しかし、ほとんどの消費者は個々の肌トラブルの程度を見誤ります。目に見える『症状』や『感覚』で判断するため、正確な原因を理解していないのです。このような誤解から、正しいスキンケアアプローチができていません。

たとえば、乾燥しているとき、多くの人は保湿ケアを行います。しかし、乾燥という症状は、因果の連鎖の結果として現れます。

現在の乾燥が『どのような因果の連鎖のどの過程で起きたのか』、『どのような肌になりたいか』、つまり乾燥症状がなくなれば乾燥を繰り返すトラブル肌のままでいいのか、あるいは乾燥を繰り返さない普通肌に戻したいのかを明確にしなければ、単なる『保湿ケア』で十分か、『肌を健康な状態に戻す』ケア、つまり皮膚バリアケアが優先されるべきか決められません。